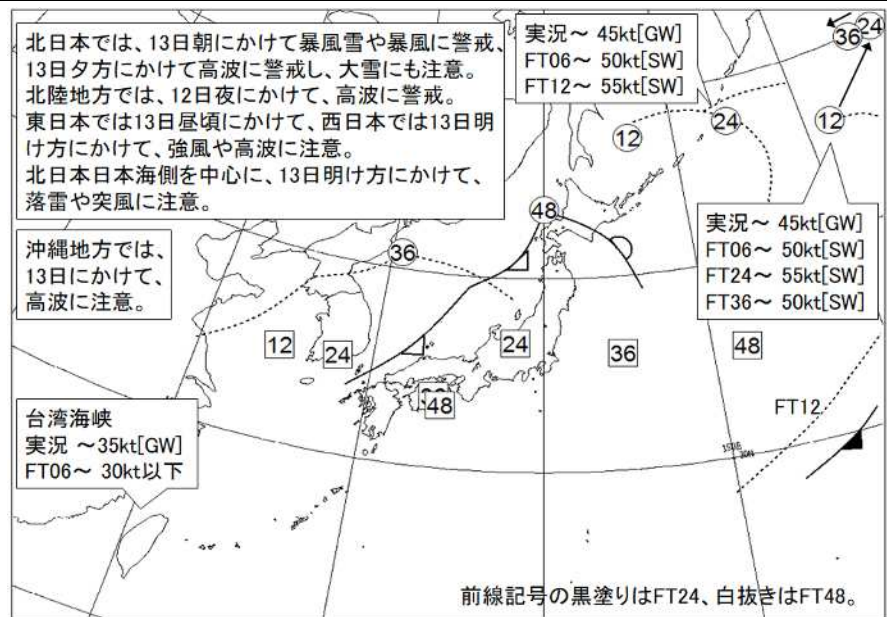


1. 実況上の着目点

- ① 華北に中心を持つ高気圧があって、南東へ移動。
- ② 日本海北部の 500hPa 5160m～5280m には、-39℃以下の寒気を伴ったトラフがあって、東進。トラフに対応する低気圧がオホーツク海や日本の東にあって、共に最大風速 45kt [GW 級] の勢力で東北東～北東進。これらの低気圧と①の高気圧との間で気圧の傾きが急になり、北日本を中心に、非常に強い風が吹いて大しけとなっている所がある。日本付近



主要じょう乱解説図

は冬型の気圧配置となって、日本海では下層寒気の流入が強まっており、筋状の雲が広がっている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は日本付近に張り出しを強めながら13日にかけて南東へ移動し、14日朝にかけて西日本へ移動する。また、13日朝には、東日本に中心を持つ別の高気圧が顕在化して、14日朝にかけて日本の東へ移動する。高気圧の南縁となる沖縄地方では、吹送距離の長い北東～東風が続き、うねりを伴って波が高くなるため、13日にかけて高波に注意。
- ② 1項②のトラフは12日夜には切離して寒冷渦となり、東進して13日夜には千島の東に達する。トラフや寒冷渦に対応する1項②のサハリン付近の低気圧は、発達しながらオホーツク海を東進して、12日夜には最大風速 55kt [SW 級] に達し、東進して13日夜には不明瞭となる。低気圧に近い北日本を中心に、13日にかけて気圧の傾きが急になるため、雪を伴って非常に強い風が吹き、大しけとなる所がある。北日本では、13日朝にかけて猛ふぶきや吹きだまりによる交通障害、暴風雪や暴風に警戒、13日夕方にかけて高波に警戒し、大雪にも注意。北陸地方では、12日夜にかけて高波に警戒。東日本では13日昼頃にかけて、西日本では13日明け方にかけて、強風や高波に注意。また、13日明け方にかけて、下層寒気の流入が続いて北日本日本海側を中心に大気の状態が不安定となるため、北日本日本海側を中心に、13日明け方にかけて、落雷や突風に注意。
- ③ 13日は 500hPa 5340m～5460m のトラフが中国東北区を東進し、14日朝には日本海に達する。トラフの東進に伴って、13日夜には日本海西部に前線を伴った低気圧が発生して東北東進し、14日朝には北海道付近に達する。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場は GSM 基本とし、量予想や降水分布は MSM や LFM も参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ① 大雨ポテンシャル(18時からの24時間)：高い所(100mm以上)はない。② 大雪ポテンシャル(18時からの24時間)：北海道 40cm。

③ 波浪(明日まで)：北海道 7m、東北・北陸 6m、近畿 4m、関東・伊豆諸島・東海・中国・沖縄 3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定なし。